

Pharm. Bull. 7: 698, 821 (1959); Chem. & Ind. 1959: 852; Baker, Finch, Ollis, Robinson: Proc. Chem. Soc. 1959: 91; Baker, Ollis, Robins; Proc. Chem. Soc. 1959: 269. 5) Kawano: Chem. Pharm. Bull. 9: 358 (1961). 6) 高橋, 伊藤, 水谷, 磯井: 薬誌, 80: 1488 (1960). 7) Erdtman, Pelchowicz: Chem. Ber. 89: 341 (1956).

Summary

From the view-point of chemical constituents, the author claims that, though the genera of *Thujaopsis* Sieb. et Zucc. and *Biota* Endl. are separated from *Thuja* Linn., they may only represent the subgenera of the genus *Thuja*. The cubic system representing the phylogeny of *Thuja* is shown in Fig. 3.

□牧野富太郎先生生誕百年記念会 この4月24日が牧野博士の100才の誕生日にあたるので、22日の日曜に上記の集まりが東京都練馬区の牧野記念庭園で催された。明るい若葉の間から初夏のような日がもれ、下草のヤマブキソウが満開。遠く北海道や四国からの方も混えて参列者は250名にのぼった。式辞・挨拶などがあって会食、ついで古人新しい人こもごも立って思い出話をし、博士をしのびその偉業をたたえた。その間下八川圭祐氏(博士のとなり村出身)指揮の合唱団の演奏、お茶の野立てなどがあり、最後に土佐民謡よさこい節に博士作の都々逸を乗せて全員で合唱。まことにその名にふさわしい花やかな盛んな会であった。なおこの日博士の書斎をすっぱり包んで保存するためのさや堂が完成し披露された。(伊藤 洋)

□Takhtajan, Armen: **Die Evolution der Angiospermen** (Gustav Fischer Verlag, Jena, 1959) 344 p. 43 figs. レーニングラードのTakhtajan教授の著作で、総説として適応進化 Adaptive Evolution について説明した後、被子植物の進化的形質の基礎として次の11章を設ける。被子植物の形成、進化的形態学にとっての原初的形質の意義、營養体の進化、花と花部の進化、受粉の進化、小孢子嚢と小孢子、胚珠、大孢子嚢と大孢子、雄性と雌性配偶体、種子の進化、果実の進化、被子植物の体系。その他文献索引がある。双子葉植物網を13亜網に単子葉植物網を5亜網に分つ。著書がモスクワ(1948)やレーニングラード(1954)で発表したものがこの中にも入れられていて便利である。著者はDarwinの百年祭にあたる年に本書を出すことを喜びとしている。

(木村陽二郎)